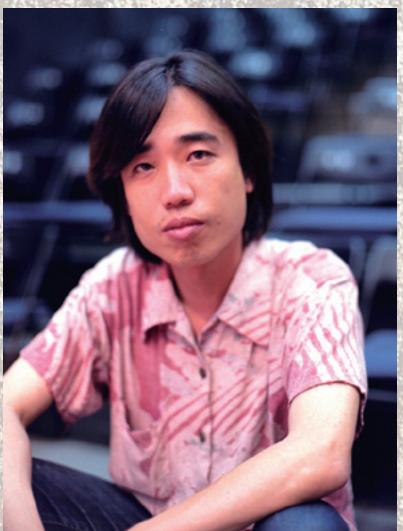


深津篤史

ノーベル文学賞を受賞したイギリスの作家ハロルド・ピントーは、今なお世界的に大きな影響力を持つ現代演劇の巨匠。そのピントー自身が上演を躊躇した問題作が「温室」だ。巨大な組織の末端で生きる人々の奇妙な悲喜劇を、深津篤史が演出する。「動員挿話」「象」の演出で鮮烈な印象を残した深津が、不条理劇に何を見出すのか、期待は膨らむ。

インタビュー◎沢美也子（演劇ライター）



ふかつ・しげふみ

1967年生まれ。同志社大学院文学研究科修士課程修了。関西で活躍する劇団桃園会主宰。劇作家・演出家・劇団プロデューサー。主な作品に「うちやまつり」（第42回岸田國士戯曲賞受賞）、「たり、のたり」「よぶには、とおい」「熱帶夜」「paradise lost,lost」など。飛田演劇賞快挙賞、兵庫県芸術奨励賞、大阪咲くやこの花賞などのほか、新国立劇場「動員挿話」で第13回読売演劇大賞優秀演出家賞、作品賞を受賞。ほかに「近代能楽集弱法師」「象」も演出。

温 室

The Hothouse

JAPAN MEETS…—現代劇の系譜をひもとく—VI

温 室

6/26(火)～7/16(月・祝)

会員販売期間
4/8(日)～4/17(火)

一般発売日
4/21(土)

小者ばかりが狭い環境で序列を競うのは、ある意味、喜劇です

——ピントー作品はご覧になっていたんですか？
深津■全く見ていないです。名前とノーベル賞を受賞したことくらいしか知らない（笑）。海外の不条理劇は好きで、昔から読んでいたのですが、アラバール、イヨネスコ、ベケットなどの古典的な不条理劇。ピントーはこの人たちよりは時代が新しいので、そこまで辿り着いていなかつたんですね。

——では、「温室」を初めて読んでの感想は？

深津■先行する不条理劇の作品と比べて、そんなに不条理劇じゃないなというのが第一印象です。ある程度、話の筋が通っていますし、変な歪み方はしていないですね。不条理劇の定義が僕はよく分からぬのですが、「温室」は、あんまり不条理

劇として読もうするとミスリードしてしまう感じがしますね。劇中で明らかにされない、分からぬことはもちろんありますけど、少ない気がするんです。

——どのように解釈して演出しようと思つていらっしゃいますか？

深津■たぶんこの作品の一番の分かりにくさは、ピントー本人がなんでこれを書いたかということだと思います。解説などによると、「温室」を書いてから上演するまでにずいぶん長いことほつたらかしていたんですね。理由は、作家として登場人物たちに愛着が持てないから、「なんか、やだ」と感じで（笑）。それが歳月を経て、愛着を持てないような人物しか出てこない作品でも上演する価値があります。

——上演するのが難しそうな作品なんですね。

深津■ピントーとしては、政治的な意図ということも含めて上演する意味があつたと思います。「温室」に登場する人物の気持ちのダイナミズムはもちろんあるんですけど、それがお客様に伝わるかというと結構遠いぞって（笑）。お話を中で、登場人物たちは野心もあり、自分の境遇なり職場での処遇なりに一喜一憂しているんですよ。だから、そこにドラマはいっぱいあるんですけど、そのド

権力の在り処が分からるのは現代日本と同じ

——病院が舞台になっていますが、背後には非常に独裁的な、あるいは全体主義的な国家の存在を感じます。

深津■そうですね。ここで描かれる国家は、あんまりいい国家じやないと思うんですよ。「患者」たちも、もしかしたら病人ではなくて、思想犯、政治犯かもしれない。そこらへんは隠されていますけれど、隠れている権力構造自体は、とてもなく巨悪かもしれないんですよ。でも、その巨悪を倒そうとか炙り出そうという芝居でもないし。だから、分かりやすい管理社会をポンと出しちゃうのは簡単なんですけど、登場人物たちがあまりすぎるのですで、悪者が見えない

ではないかなと思っています。今の日本の構造に似ているのかなと。分かりやすい悪者は今いませんからね。そこは、今上演する意味があるんじやないかと思います。

——権力の構造の見えにくさ、知らない間に管理

社会に取り込まれている怖さは現代日本と通じるものがありますね。

深津■それはあると思います。ただ「温室」では巨悪自体は存在しないかも知れないとも思つています。

——どこまで辿つても小者しかいなかつたら、世界はどうなってるんだ？と思つてしまします。

——どうしようと思つちゃいますが、そういう可能だし、感情移入も可能ですが。

深津■かっこいいヒーローとか、ものすごい悪者がいるとかではないんです。「一番手ですらなくて、四番手か五番手くらいの、あんまりぱつとしない人たちばかりで（笑）、その中で序列を競つてますから、そういう意味では喜劇として考えることも可能だし、感情移入も可能ですが。

——非常に怖い話だと思うのですが、反面、台詞のやりとりがコミカルな部分もあります。

深津■日付を間違えているシーンとかね、結構おかしなことを書いていますよね。カツツ嬢の長台詞だったと思うけど、恋のなれそめを語るところで、抒情的な台詞なのに「あなたの白いパンツ姿」みたいな台詞があつて、だいなじやん！と思つた（笑）。ピントーはこれをギャグで書いたのかどうか、もう分からなくて（笑）。ほとんどドリフみたいな書きもあって、ぜひやりたいですね。舞台監督が嫌がつても、できるだけチープにね（笑）。お客様が見終わつて帰る時の顔が、今話しててちょっと見えてきたような気がします。難しい顔をしていたらダメですね。人間つてくだらねーとか、嬉しそうに言つてくれるほうがいいかもしないで。

——そのために、気を付けたいことは？

深津■役者さんに「この役、どこがかっこいいと思いませんか？」と聞いてみたいですね。普段はやりらない今まで。でも、動かしているのは小者ばつかりという構造になつてくると、逆に怖いなと思いますね。ヒーローが出て来たって、小者ばつかりだと組織は倒せない。小者の替わりはいくらでも出てくるから。すごいボスが出てきて、ヒーロー

——がそれを倒せたら組織はつぶれますけど、そういう強いボスはないのが「温室」なんですね。

——どこまで辿つても小者しかいなかつたら、世界はどうなってるんだ？と思つてしまします。

——ういうことがあんまりない氣がするんですね。

深津■ピントーとしては、政治的な意図ということも含めて上演する意味があつたと思います。「温室」に登場する人物の気持ちのダイナミズムはもちろんあるんですけど、それがお客様に伝わるかというと結構遠いぞって（笑）。お話を中で、登場人物たちは野心もあり、自分の境遇なり職場での処遇なりに一喜一憂しているんですよ。だから、そこにドラマはいっぱいあるんですけど、そのド

——上演するのが難しそうな作品なんですね。

値があるんだと、思考が変化していくたので、上演に踏み切つたということなんですね。その時期が、ピントーが政治的な発言をするようになつた時期と符合しているそうなんですね。僕も劇作家でもあるので、例えば書きたいテーマのために感情移入できない人物を出したりはしますが、それで書いていて気持ちの抑揚みたいなものが現れて、嬉しかったり悲しかったりする。「温室」には、そういうことがあんまりない氣がするんですね。

——上演するのが難しそうな作品なんですね。

深津■ピントーとしては、政治的な意図というこ

とも含めて上演する意味があつたと思います。「温

室」に登場する人物の気持ちのダイナミズムはも

ちろんあるんですけど、それがお客様に伝わるか

というと結構遠いぞって（笑）。お話を中で、登

場人物たちは野心もあり、自分の境遇なり職場での処遇なりに一喜一憂しているんですよ。だから、

そこにドラマはいっぱいあるんですけど、そのド